

平成5年は酉年です。十支の動物の中で、ただ一つの鳥類です。単に鳥という、ニワトリを思い浮かべる人も多いようですが、ニワトリは人間と最もなじみ深い鳥といえます。

ニワトリといえ
ば卵——日本人が一年間に食べる卵の数は、一人当たり311個です。これはイスラエルに次いで、世界第2位です。ニワトリには、随分お世話になっているわけですね。

ニワトリのルーツは、インド、スマトラなどのジャングルに住むヤケイ（野鶏）を改良したものとされています。それが、いまでは世界中のほとんどで飼育されています。

ニワトリが日本の文献に最初に登場するのは『古事記』です。天照大神が天の

岩屋にこもったとき、その岩屋から出てもらうために、常世の長鳴鳥を鳴かせたことが記されています。東南アジアには、ニワトリが太陽を呼び出すいろいろな神話がありますが、

日本もそうした流れをくんでいるのでしよう。

どりの 今年は酉年

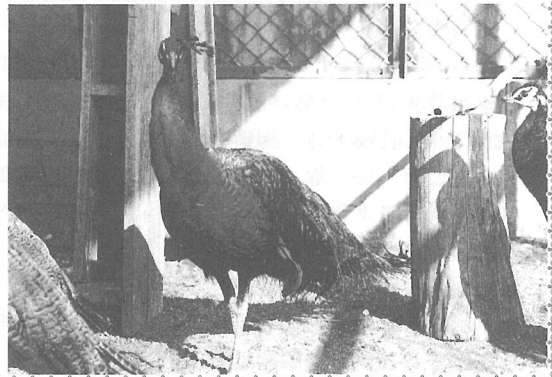
ニワトリには、卵用や肉用、卵肉兼用、観賞用などの種類があります。日本の観賞用のニワトリの中には、特に長尾鳥が世界的にも有名です。尾が12メートルになるものもあります。また、鳴き声のよい東天紅は、張りのある声で20秒近くも鳴き

続けるものもあります。ほかに、も、声良鶏や唐丸など、鳴き声自慢がいろいろあります。



人間と縁の深いニワトリですが、最近はその姿を見かけることが少なくなりました。昔は農家の庭先などで飼われていて、文字通り「ニワトリ」でした。しかし、現在では企業の養鶏が中心となり、ケージで餌や水を与えて飼っていることが多いので「ハコトリ」などといわれています。

今年も酉年。でも、初日に向かって時を告げる鳥の声で目を覚ますというのは、都会人にとっては無理なようです。



文芸

俳句

ひと塩の河豚の白さよ漱石忌

戸村 静華

ひとり酌む深夜の寝酒利きて来し

藤代 ゆう

タイミング外しました呑む寝酒かな

行方はじめ

本復を祈り柚子湯に浸りけり

勝又 和徳

ウイスキー揺れる夜汽車の寝酒にす

山口 一秋

幾ばくの命がこちてする寝酒

鈴木 南知

読みかけの本そつと置き寝酒のむ

玉虫たけし

江の島や鳶遊ばせてささら波

海保 きみ

妻の目を盗みて厨寝酒かな

若梅あやめ

全集の手垢なつかし漱石忌

(選者) 土屋 栗水

短歌

調理台に魚屋が使ふ庖丁の青く
ひらめく電光うけて

萩原 信一

職人が手早く変へる大看板街は
にはかにメリークリスマス

中越美代子

高校生の孫の着付けにはりきる
姑助手なるわれに指示くだしつ

西山満里子

文化祭のさつきの作品愛でゆけり
花に劣らぬ葉のつやめきを

鈴木 やす

俄雨に公孫樹もみぢはさは立ち
てみ寺の庭を黄にうめつくす

吉岡 信子

正直に目尻の小ジワ映し出す鏡
を卓に裏返したり

八角 三枝

初なりのりんごの果実熟せるを
鳥啄みし跡にしりたり

土屋 五六

夕つ日の沈みし後の兼六園を妻
と歩めり松を愛でつつ

永藤 滋

広報に金婚式祝ふ記事のれり昨
年は夫と出席したるに

向後 房

賽銭は小さき音たて地下に置く
収納庫の中に吸はれゆきたり

(選者) 斎藤つね子

